



〔海の状況 (2/16~3/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 2月中は概ねはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移したが、3月以降は概ね平年並み(±0.5℃)で推移した。(図1)
- ・米ノ地先の表面水温… 2月中は平年並み(±0.5℃)からはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移したが、3月以降は概ね平年並み(±0.5℃)で推移した。(図2)

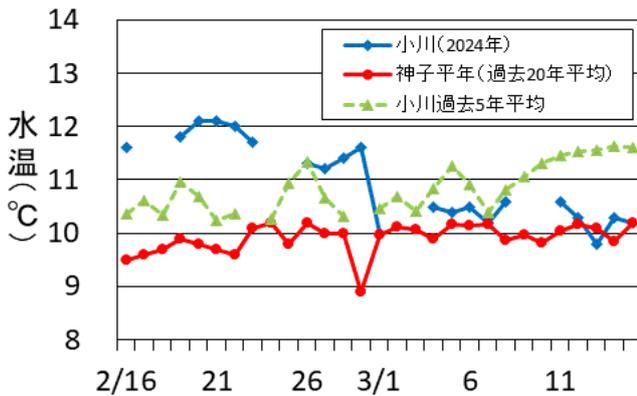


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

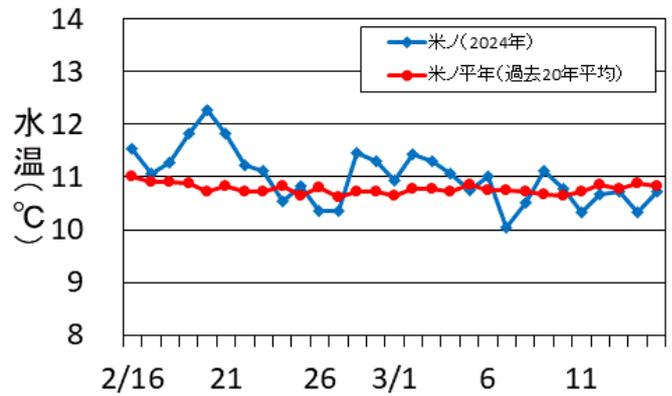


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※神子平年は1998年~2017年の神子地先の平均値である。
小川過去5年平均は2019年~2023年の小川地先の平均値である。

〔若狭湾および周辺海域の海況：2月〕

2月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0 m)と水深50 mでは、12℃~14℃の範囲が若狭湾沖に広がっていた。水深100mでは、8℃~12℃の冷水域が若狭湾沖西部に張り出していた。水深200 mでは、2℃~4℃の範囲が若狭湾沖に広がっていた。(図3)

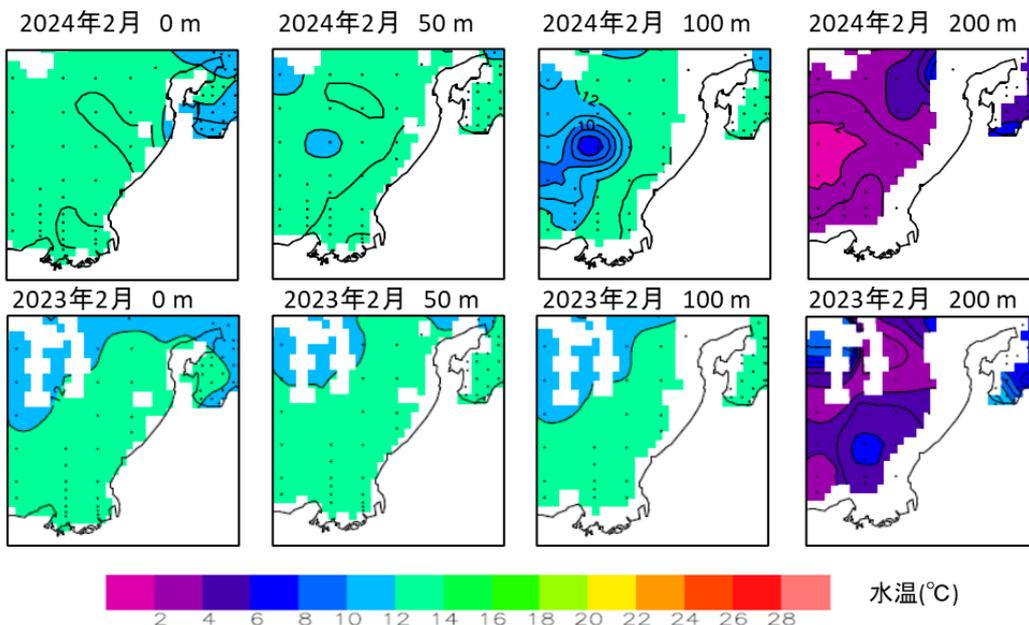


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

「越前がに」の漁模様

3月20日で終漁した今漁期(令和5年11月～令和6年3月)の「越前がに」漁模様をお知らせします。

○期間中の操業延日数は2,575日(前年:2,583日、対前年比100%)で、操業隻数は60隻(前年:62隻)でした。

○漁獲量はズワイガニ(雄ガニ)206t(前年:155t、対前年比:133%)、ミズガニ(雄ガニ)59t(前年:95t、対前年比:62%)、セイコガニ(雌ガニ)179t(前年:165t、対前年比:109%)とミズガニは前年を下回りましたが、ズワイガニとセイコガニは前年を上回りました。

○1kgあたりの単価はズワイガニ8,921円(前年:10,136円、対前年比:88%)、ミズガニ1,856円(前年:1,134円、対前年比:164%)、セイコガニ2,999円(前年:3,107円、対前年比:97%)とズワイガニは前年を下回りましたが、セイコガニは前年並み、ミズガニは前年を上回りました。

漁獲量等のデータは福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。(漁業管理グループ 松宮 由太佳)

【県内の漁模様：1月】

2024年1月の県内の総漁獲量は319tで、前年同月を148t下回り、平年を159t下回った。

【定置網】

漁獲量は71tで、前年同月を79t下回った。サワラ、ブリ類が上回り、マイワシ、マグロ類、アジ類等が下回った。

【底びき網】

漁獲量は195tで、前年同月を68t下回った。ズワイガニ[オス]、フグ類、マダイが上回り、カレイ類、水ガニ、アカエビ等が下回った。

【釣り・その他】

漁獲量は54tで、前年同月並みであった。ハマチ、ツバスが上回り、ナマコ類、ヤリイカ、キダイ等が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(2月)

定置網	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
魚種名					(kg)
マイワシ	25,860	96,125	9,792	-70,265	16,068
アジ類	1,979	4,196	5,137	-2,217	-3,158
マグロ類	3,868	9,266	3,823	-5,398	45
ブリ類	5,405	3,178	4,446	2,227	959
サワラ	27,450	22,815	37,700	4,635	-10,250
スズキ	867	2,606	4,166	-1,739	-3,299
ヤリイカ	1,342	2,635	5,550	-1,293	-4,208
その他	1,446	2,284	4,104	-838	-2,658
合計	70,675	149,518	80,348	-78,843	-9,673

底びき網

魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,615	962	514	653	1,101
キダイ	1,072	1,112	633	-40	439
ヒラメ	1,342	1,624	1,959	-282	-617
カレイ類	118,851	140,308	187,509	-21,457	-68,658
(アカガレイ)	98,848	104,904	161,808	-6,056	-62,960
(その他カレイ)	20,003	35,404	25,700	-15,402	-5,698
フグ類	1,986	543	528	1,443	1,458
ハタハタ	2,744	2,936	36,908	-192	-34,164
タコ類	1,124	2,456	3,501	-1,332	-2,377
ズワイガニ 計	50,952	73,027	70,378	-22,075	-19,426
(ズワイガニ)	34,213	31,076	32,026	3,137	2,187

※1 平年の値は2014～2023年の10年平均です。 ※2 その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。ズワイガニ漁獲量は集計方法の違いにより福井県底曳網漁業協会と異なる場合があります。

※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

底びき網の続き

魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
(水ガニ)	16,739	41,951	38,352	-25,211	-21,612
アカエビ	2,668	10,772	4,232	-8,103	-1,563
その他エビ	1,616	5,219	5,627	-3,603	-4,010
その他	11,027	24,509	26,004	-13,482	-14,977
合計	194,998	263,468	337,792	-68,470	-142,795

釣り、延縄、さし網、その他の漁法

魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
ブリ類	18,638	2,793	3,118	15,845	15,520
(ハマチ)	6,625	162	283	6,463	6,342
(ツバス)	11,996	2,608	2,694	9,388	9,302
キダイ	1,266	2,297	2,215	-1,031	-949
アマダイ	1,038	1,402	2,170	-363	-1,132
ヤリイカ	1,067	4,121	3,191	-3,054	-2,124
タコ類	1,811	2,157	3,863	-346	-2,052
ナマコ類	15,751	22,007	19,893	-6,255	-4,142
サザエ	1,422	1,212	1,113	210	309
その他	13,902	20,303	26,708	-6,402	-12,806
合計	53,628	53,994	60,056	-366	-6,427

全漁法

魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
合計	319,301	466,980	478,196	-147,679	-158,895

【近隣府県の漁模様】

(漁獲状況…石川県：12月上旬の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：1月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：1月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：1月中旬～2月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ101t、ブリ7.1t、サバ5.8t、フクラギ・コゾクラ2.1t、カタクチイワシ1.0t

京都府…定置網…マイワシ49.7t、サワラ2.0t、ブリ類1.9t、マグロ類1.2t、マアジ0.6t

兵庫県…定置網…マイワシ375kg、マアジ261kg、マグロ67kg、ツバス44kg、スズキ8.6kg、ヤリイカ8.6kg

鳥取県…まき網…マイワシ69t、マサバ34t、ブリ類0.4t、マアジ0.2t、ウルメイワシ0.1t

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

春の魚「ホタルイカ」の紹介

<はじめに>

ホタルイカは富山湾の春の風物詩であり、夜明け前の定置網漁業で漁獲されているホタルイカの幻想的な青い光や漁師の様子がメディアで放映されているため、ご存じの方は多いと思います。実は、本県でもホタルイカ漁が行われており、大半は底曳網漁業で漁獲されています。そこで、本稿ではホタルイカについての生態や当センターが行う調査について紹介します。

<生態・特徴>

ホタルイカを含むイカ類全般は頭足類と呼ばれており、頭から直接足（腕）が生えているという特徴から命名されました。ちなみに、エンペラ（耳）がある部位が頭部だと勘違いされることがありますが、エンペラがある部位は胴部で、眼がある部位が頭部です。本種の寿命は1年で、富山湾における主産卵期4～5月、卵は水深150m以浅の層に分布し、主分布層は0～100m層と推測されています。本種は小型のイカで、目は開眼形、鱗は菱形で体の1/2に達します。体表には丸い点状の発光器があり、その表面上には800個前後あることが知れています。また、本種は通常外洋の水深200～600mの中層に生息しています。また、本種の交尾については、雄には莢（さや）と精子が組み合わされた精莢（せいきょう）という交尾器である腕を持ち、雌の体内に刺さることで交尾が成立します。卵巣で成熟した卵は、輸卵管腺で分泌されるゼリー状物質で包まれ一列の数珠のように漏斗（墨や水を吐き出す管）から生み出されます。この間に、雌の顎のところに植え付けられていた精莢の中の精子と受精が行われますが、顎の精子がどのようなメカニズムで卵へ運ばれ受精が完了するのかわかりません。なお、本種の卵の大きさは、直径1.5mm×1.5mmの楕円形型です。余談ですが、スルメイカでは直径1mm以下の卵が等間隔に並んだ直径80cmにもなる大きなゼリーの卵塊を生むことが知れていますが、ホタルイカはこのような大きな卵塊はつくることがありません。

<卵・稚仔分布調査>

次に、当センターが実施している卵・稚仔分布調査について紹介します。本調査はイワシ類やスルメイカなどの多獲性浮魚類の卵・稚仔の分布状況を把握し、経年変化を把握することによって、浮魚類の資源変動を予測するための基礎資料を得ることを目的としており、同じ時期（3月から6月および10月から11月）、同じ調査定点、同じ手法で1973年から継続して実施しています。具体的な方法として、福井県沖合に調査定点を設定し（図1）、口径45cm、目合0.335mmのネットを用いて水深150mから水面まで鉛直曳し、卵・稚仔を採集します。本稿では本調査で採集されたホタルイカの卵とホタルイカの漁獲量の関係を整理しましたので紹介します。

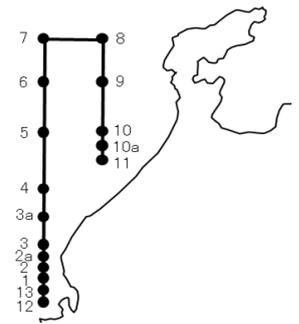


図1 調査定点図

図2に本調査により採集されたホタルイカ卵数と本県のホタルイカ漁獲量の経年変化を示しました。卵数は各月で採集されたホタルイカ卵の合計個体数を示しています。直近の採集卵数について、2020年以降減少傾向を示しており、2023年は平年並みでした。直近の漁獲量について、2019年に豊漁でしたが、その後減少傾向を示しており、低水準で推移しています。また、採集卵数と翌年の漁獲量は統計的に有意な相関は見られませんでした。

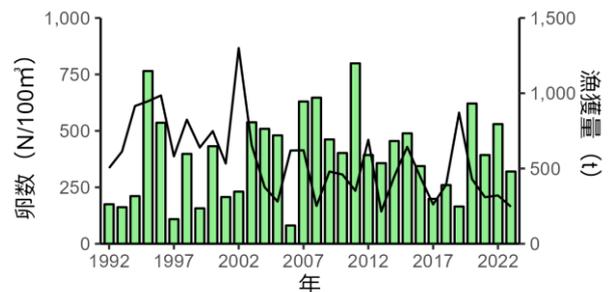


図2 採集卵数と本県の漁獲量の経年変化
(棒：採集卵数、折れ線：漁獲量)

図3に月別の採集卵数と漁獲量の推移（10年平均）を示しました。なお、1月から2月および7月から12月は採集、漁獲ともに実績がなかったため、除外しています。採集卵数は5月にピークを迎え、6月もピークの半数程度採集される一方、漁獲は4月にピークを迎え、6月には漁獲が終了しているという結果でした。

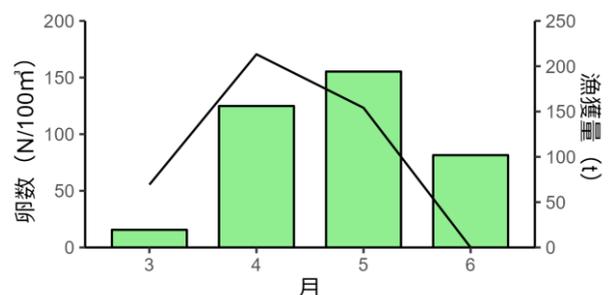


図3 月別の採集卵数と漁獲量の推移
(棒：採集卵数、折れ線：漁獲量)

図4に調査定点別のホタルイカ採集卵数（直近10年平均）を示しました。比較的沿岸の定点で採集卵数が多く、沖合の定点では少ないという結果でした。また、採集卵数が多かった定点の水深は100mから230mであり、沿岸近くの水深200m付近に産卵のために集群すること（安達 1988）という先行研究を支持する結果でした。

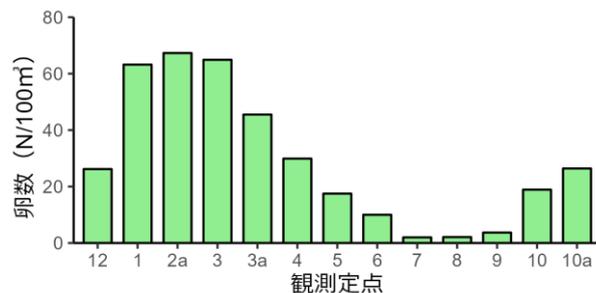


図4 定点別の採集卵数

<さいごに>

ホタルイカの生態や回遊について解明されていないことが多く、2021年度に資源量調査の対象魚種に含まれたばかりでありデータが少ないため、今後のホタルイカの漁獲量が増加していくかという評価は難しいのが現状です。豊漁を祈りつつ、漁獲や卵・稚仔の分布、海況等のモニタリングを継続していきます。

(漁場環境グループ 梶原 大郁・安田 政一)